

教育研究業績書

令和 7年 5月 1日

氏名 元村 智恵子

研究分野	研究内容のキーワード
学校保健	学校保健史、学校保健組織活動、健康教育、学校看護

教育上の能力に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		
2. 作成した教科書、教材		
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
5. その他		

職務上の実績に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	1989年5月8日 1994年3月31日 2002年8月23日 2008年3月16日 2016年12月16日	看護師免許 養護教諭一種免許状(平5養一第112号 熊本県教育委員会) 中級教育カウンセラー資格 養護教諭専修免許状(平19養専修第1号 長崎県教育委員会) 日本語教育能力検定試験合格
2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	1989年4月1日 1994年4月1日 1998年4月1日	長崎大学医学部附属病院 看護師(4年間) 長崎県南串山町立第二小学校 養護教諭(4年間) 長崎県西有家町立西有家小学校 養護教諭(3年間)

	2001 年 4 月 1 日	長崎県瑞穂町立大正小学校 養護教諭 (7 年間)
	2008 年 4 月 1 日	長崎県対馬市立豊玉小学校 養護教諭 (4 年間)
	2012 年 4 月 1 日	長崎県雲仙市立神代小学校 養護教諭 (3 年間)
	2015 年 4 月 1 日	長崎県雲仙市立愛野小学校 養護教諭 (3 年間)
	2019 年 5 月	活水女子大学 健康生活学部 子ども学科 (非常勤講師、前期)
	2019 年 9 月 27 日	同上 (特別専任講師、3 年 7 か月)
	2023 年 4 月	同上 (非常勤講師、前期及び後期)
4. その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の 名称	単著、共 著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会 等の名称	概 要
(著書) 1『先生方のアイ デアいっぱいの 教材集 作って みよう使ってみ よう』 (全 96 頁)	共著	2002 年 1 月	日本生活医学研 究所	「デジタルカメラで、簡単ビデオ作成」 をテーマとした実践紹介。 編者：元村智恵子 掲載頁：p14～15
2『21 世紀・新し い時代の健康教 育推進学校の実 践-第 11 集-』(全 105 頁)	共著	2013 年 2 月	日本学校保健会	テーマ： 「学校と家庭・地域が共に取り組む健 康教育～学校保健委員会の伝統を継承 しさらなる充実を目指して～」 伝統的に推進している学校保健委員 会を核とした健康教育の取り組みにつ いての発表及び報告。 編 者：元村智恵子 発表者：宮川 純 共同研究者：雲仙市立神代小学校職 員一同 掲載頁：p3～8

(学術論文) 1「精神障害者の社会復帰過程での社会資源活用の実際とその援助について一症例をとおして」	共著	1989 年 8 月	『精神科看護第 29 号』 日本精神科看護技術協会、p55-61	精神障害者が社会復帰する際に活用できる社会資源にはどのようなものがあるか、また、それらがどのように活用されているかについて症例を通して調べ、看護婦としてどのように援助すべきかを考えることを目的として研究した。症例が利用した社会資源の実際には、住宅、経済、就労、生活、マンパワーがあり、援助として受け皿である退院後の生活の見通しを整える必要が認められた。また、日常生活を送るうえでの具体的な行動や健康管理、周囲の方々との接し方等の指導や訓練への援助、また、看護者が知っておくべき社会資源について整理し、医療と福祉と保健の橋渡しの援助の必要性が認められた。 編 者：松尾光恵 共著者：元村智恵子、森弘美、山口広子、山本聡子、鷺崎恵 *共同研究につき本人担当部分抽出不可能 掲載頁：p55～61
2「精神科病棟内入院患者のコミュニケーションについて」	共著	1991 年 12 月	『精神科看護第 37 号』 日本精神科看護技術協会、p73-78	患者同士の関係は医療スタッフとの関係に比べ、時間的・空間的にも密接であり、影響を及ぼし合う可能性が高い。それらの関係を有効なものとする際に看護者としてどのような援助が必要であるかを明らかにするための予備的調査を行った。その結果、仲介的役割を果たす患者の重要性が確認され、患者間のかかわりは特に夕食後に多く、時間はごく短いことがわかった。また、かかわり合いは自室で多く、デイルームでは少なかった。同室内の患者同士は連帯意識が強くそれぞれの空間にそれぞれの意味付けをして生活していることが推測された。 編 者：元村智恵子 共著者：山口正吉、金井田文恵、内矢洋子、南秀雄、太田保之 *本人が全体の主担当 掲載頁：p73～78

(その他) 1「健康教育の充実と学校保健委員会の活性化を目指して ～校内体制づくりと外部との連携を通して～」	発表	2014 年 2 月	長崎県学校保健・学校安全研究協議大会（雲仙市）	学校保健委員会を核とした健康教育は伝統的に地区単位で活動しており、学校における学級・学年単位の横軸の取組と各地区の異年齢集団における縦軸の取組によりその推進を図っている。更なる充実と活性化を目指し、校内体制づくりと外部連携の可能性を求めて取り組んだ。 その例として「職員向けの連絡通信」の作成、3名の歯科衛生士の協力を得た「親子歯みがき教室」やネット配信事業を活用した歯科保健指導、外部講師による職員の「メンタルヘルス研修」などに取り組んだ。また、学校保健委員会の運営と家庭・地域との連携では運営計画を作成し、会の充実を図るために目的に応じて、グループ協議や全体協議、学習会、講話会、発表会と様々な形態を取入れて実施した。その結果、年間を見通した体制を整え、スムーズな実践につなげることができた。 共同研究者：雲仙市立神代小学校職員一同
2「健康的な生活習慣を身に付け、活気ある生活を送る子どもの育成を目指して ～保健指導の体制づくりと学校保健委員会の活性化を目指して～」	編者	2015 年 8 月	九州健康教育研究大会(長崎市) ＊異動のため、後任者が発表。 ”	児童の健康的な生活習慣の実践を支えるために、保健活動の組織的展開の実践についてまとめた。具体的には、学校保健年間計画に外部との連携や職員研修、家庭の協力が必要なチェックカードの実施時期などを位置づけることで、年間を見通した体制を整えスムーズな実践につなげた。また、歯科検診の事前調査や事後指導は、保健管理と保健指導の連続した流れの中で、学校歯科医の助言や指導の機会を設定し、カードを活用して家庭との連携を図った。学校保健委員会では、特に、活動推進の中心となる各地区代表の保健委員同士の交流を図る取り組みを計画した。この中では早期受診を図る工夫について意見を出し合い、JK法を用いて家庭、PTA活動、学校のそれぞれができることをまとめ、その後の取り組みにつなげた。 編 者：元村智恵子 発表者：七條成美 (編者、異動により発表者変更) 共同研究者：雲仙市立神代小学校職員一同